

農林水産祭

第 57 回 うまいくだものコンクール りんご（シナノスイート）審査結果  
長野県園芸作物生産振興協議会 うまいくだもの推進部会

審査日：令和 6 年 10 月 17 日（木）

場 所：松本合同庁舎 講堂

審査結果

「審査所見」

長野県で育成された「シナノスイート」は、高い市場評価が追い風となって生産拡大が進み、令和 6 年には県下のりんご栽培面積の約 1 割を占め、「ふじ」、「つがる」に次ぐ基幹品種となっています。

コンクールは県内の産地育成・生産振興と栽培技術及び品質の向上を図ることを目的に、平成 15 年から実施しており、本年も県内各地から 24 点の出品がありました。

審査は基準に基づき色沢、玉揃い、形状、軽欠点の有無を評価したほか、簡易型の光センサーを活用して糖度を測定するなど食味にも配慮し、厳正かつ公正に行いました。

本年のりんごは、6～8 月の集中豪雨、高温干ばつに見舞われた年でした。そのような気象条件の中、果肉軟化や日焼け果の発生、カメムシ類、褐斑病、炭そ病、輪紋病などの発生が多い年でした。一方で、昨年に続き本県に影響する台風は少なく、果実の落果や果面の擦れ傷等の被害は少ない年でした。

この様に気象の影響を受けた年でありましたが、今回の出品物は、いずれも日頃の丹精込めた管理が伺え、生産者の栽培技術を競うコンクールにふさわしい果実でありました。また、北信の標高が高い地域からは色づきが良く、中信や東信地区からは果皮色が明るい鮮やかな色調の果実が出品され、各産地の特徴が現れていました。

平均糖度は、14.2%と、一昨年を 0.3 ポイント下回る糖度でした。上位入賞品は、糖度も高く、特に着色は素晴らしく仕上がっており、葉摘みや玉回しなどの管理も行き届いていました。果形や玉揃いも良好で、軽欠点もなく、選果技術の高さも伺えました。

全体としては、栽培面積の増加に伴い、栽培技術は着実に向上していると感じました。入賞を逃した出品財の品質も高く、その差は果形不良やさび、着色むらなど極軽微な欠点によるものでした。

出品者の皆様には、県オリジナル品種の栽培に積極的に取り組まれ、栽培技術の粋を尽くした果実を多数出品いただいたことに感謝申し上げます。また、入賞されました皆様にお祝いを申し上げますとともに、今後とも先導的に各地域の生産振興にご尽力いただきますことをお願い申し上げます。審査所見といたします。

審査委員長 長野県果樹試験場長 宮本 賢二

入賞者名簿

(出品点数：24点、 平均糖度：14.2% 一昨年対比-0.3%)

賞の名称	(ふりがな) 氏名	市町村	JA名
農林水産大臣賞	(ふるはた とよかず) 古幡 豊和	山ノ内町	JA ながの
農林水産省農産局長賞	(いまい かんじ) 今井 貫至	松本市	JA あづみ
長野県知事賞	(すずき しゅんすけ) 鈴木 駿介	山ノ内町	JA ながの
長野県園芸作物生産振興協議会長賞	(こばやし ひであき) 小林 英晃	山ノ内町	JA ながの
長野県園芸特産振興展推進協議会長賞	(こみなと たかのり) 小湊 崇法	山ノ内町	JA ながの
全国農業協同組合連合会長野県本部長賞	(やまと けいた) 山戸 敬太	山ノ内町	JA ながの
一般財団法人長野県果樹研究会会長賞	(こみやま まさみね) 小宮山 正峰	立科町	JA 佐久浅間

